

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

① 第三者評価機関名

特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター

② 評価調査者研修修了番号

SK2025044

1401C048

③ 施設名等

名 称：	児童養護施設三ヶ山学園
施設長氏名：	福井 伸弥
定 員：	82名（本園・分園70名、地域小規模施設6名×2館）
所在地（都道府県）：	大阪府
所在地（市町村以下）：	貝塚市東山二丁目1番1号
T E L：	072-447-0611
U R L：	http://mikeyamagakuen.jp

【施設の概要】

開設年月日	1979/4/1
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人三ヶ山学園
職員数 常勤職員：	49名
職員数 非常勤職員：	25名
有資格職員の名称（ア）	社会福祉士
上記有資格職員の人数：	6名
有資格職員の名称（イ）	保育士
上記有資格職員の人数：	24名
有資格職員の名称（ウ）	臨床心理士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（エ）	看護師
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（オ）	栄養士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（カ）	医師（嘱託医）
上記有資格職員の人数：	1名
施設設備の概要（ア）居室数：	43室（本園26室、分園11室、地域小規模施設6室）
施設設備の概要（イ）設備等：	本園1F：リビング、ダイニング、心理療法室、学習室
施設設備の概要（ウ）：	本園2F：静養室
施設設備の概要（エ）：	本園3F：家族訓練室、静養室

④ 理念・基本方針

・法人の基本理念：『誠実な心、そして謙虚な心で精進し、すべての利用者に心のこもった温もりのある支援をしてみたいです。』

・事業所の運営方針：「強く、やさしく、健康で」をモットーにして、日々の生活の中で基本的生活習慣を養成し、進学や就職を目指して、学力や教養を身につけることに努め、子どもたち一人一人の個性を大切にしながら、子どもたちが互いに認め合い、ともに成長し、自立できるように支援していきます。

⑤ 施設の特徴的な取組

・社会福祉法人三ヶ山学園（以下、「法人」という）は、昭和54年に初代理事長石田長五郎氏によって設立され、同年4月に児童養護施設三ヶ山学園（以下、「施設」という）を開設した。当施設は貝塚市の丘陵地を開発した新興住宅地・東山の一角に位置し、周囲は長閑な田園地帯で南側は和泉山脈の山並みを見渡せる静かな環境で、厄除け観音で有名な名刹・水間寺も徒歩圏内である。子どもたちが日々自然とふれあい、地域の人々と接し、伸び伸びと育つには申し分のない環境である。

・今回の第三者評価の対象施設は、当施設と一体的に運用される地域小規模児童養護施設エストモンテとネクストモンテ（平成19年・21年開設、以下、「地域小規模施設」という）を含むが、法人の事業展開により、当施設の隣接地に軽費老人ホーム・デイサービスセンター・児童発達支援センター・自閉症児支援センター・三ヶ山学園附属診療所等の社会福祉施設が相次いで開設され、当施設はこれらの施設と有機的に連携しながら、こどもの健康増進・健全な成長・社会性の涵養に努めている。

・当施設は平成22年の本園の建替新築工事に併せて本園内に定員6名の小規模グループケア2ユニットを開設するとともに本園の敷地の一角に定員6名の小規模グループケアホーム「ろくめいかん」を開設、前述した地域小規模施設2ユニットに加え、平成29年には本園の隣接地に定員8名の分園型小規模グループケア2ユニットを開設するなど、法人の家庭的養護推進計画に基づく小規模ケア化を着実に推進し、家庭的な環境のもとで子どもたちの支援を充実させている。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2025/5/2
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2025/9/22
前回の受審時期（評価結果確定年度）	令和2年度

⑦総評

（特に評価が高い点）

(1)小規模化・家庭的養護推進の国の長期的方向性を踏まえた先進的な取り組み

・当施設は平成22年に建替新築工事を行った本園建屋内に小規模グループケア2ユニットを開設、それと前後して隣接地に定員6名の地域小規模施設2ユニット（女児）、小規模グループホーム1ユニット（男児）、平成29年には本園の隣接地に定員8名の分園型小規模グループケア2ユニット（男児）を開設し、7つの小規模ユニットを一体的に運用しており、本園・小規模ユニット間の職員間の情報共有・意思疎通や協力体制を図りながら、家庭的養護推進計画に基づく家庭的な環境のもとで子どもたちの支援を充実させている。

(2)清潔で快適な住環境

・法人の清潔で安心な場所を提供することは施設の大切な役割という考えから、施設の住環境整備に力を入れ、職員と子どもと一緒に取り組む清掃が施設の隅々まで行き届き、気持ちよく過ごせる環境を作っている。テーブル・椅子・ベッドなどの調度品も美しくしっかりと作られたものが多く、居室の整理整頓も徹底されている。子どもたちの絵や工作が施設の所々に飾られ、子どもたちが自らの生活の場として愛着を持てるよう整えられている。

(3)子どもの自主性の尊重、子どもの最善の利益の観点に立った養育・支援の展開

・毎月、フロア毎に子どもの生の意見を聴く「子ども会議」を開催、「なんでも相談箱」に入れられた投書一つ一つへの回答を丁寧に行うなど、子どもファーストの姿勢が養育・支援の隅々まで徹底されていることが窺え、子どもの自主性を尊重した日常のきめ細かい支援・援助が子どもの健全な育成や進学にもつながっている。

また、虐待による措置入所が大半を占める子どもの保護者との円満な関係構築に配慮して、保護者との情報共有の範囲、保護者の同意手続の進め方等に子どもの最善の利益の観点に立ったケース・バイ・ケースの判断を慎重に行っている。児童相談所との連携も綿密に実施しており、これらの取組の結果、週末里親の引き受け手も多く、入所児童すべてが保護者または里親からの支援が得られているとのことである。

（改善が求められる点）

(1)目標管理制度の再構築と人事評価基準の明確化による職員のやりがいの増進

・職員のキャリアパスの基本となる目標管理のしくみは構築できていない。以前は目標管理シートにより職員がスキルアップ等の自己目標を設定し、施設長のヒアリング時に評価のコミュニケーションを行うしくみとしていたが、業務多忙により形骸化しているとの意見もあり取止めとなったと伺っている。施設では目標管理制度の再構築に向けて検討中と伺っているが、運用しやすい目標管理シートを再考し、年2回の施設長とのヒアリングを通じて設定目標と取組の成果についてコミュニケーションをはかれる形を期待する。同時に職員の取組の成果や能力向上を客観的・多面的に評価し、昇給・昇格・賞与増減につなげる人事評価基準を明確化し、職員のやりがいの増進につなげることを期待する。

(2)職員同士のコミュニケーション能力の強化

・子どもとの関わりは上手でも大人との関わりに悩みがちな最近の若い職員向けに、外部講師と契約して職員同士のコミュニケーション能力の向上を目指した研修を実施しているが、施設内のコミュニケーションを充実し、子どもの養育・支援に施設全体で向き合うチーム結集力のさらなる向上を期待する。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

清潔で快適な住環境と子どもの自主性の尊重、子どもの最善の利益の観点に立った養育・支援の展開、について特に高い評価をいただいたことは、私たちが日ごろ特に意識して取り組んでいることが外部からも評価されたと感じ、とてもうれしいです。

一方で職員の人事評価やコミュニケーションの点で、課題の指摘も受けました。子どもの支援を優先するあまり、職員のことを疎かにしていたのではないかと反省しています。職員のコミュニケーション向上については、すでに外部講師との契約も済ませており、今後の改善に向けてすでに対策しています。

この度は大変貴重な機会をいただき感謝しています。子ども支援の質は落とさずに、職員の満足度を上げる取り組みを今後も続けてまいります。